

令和3年度全国・学力学習状況調査に係る調査結果等の情報提供について

平素は、本校教育にご支援とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、去る5月27日（木）に本校も令和3年度全国学力・学習状況調査に参加しました。

葛川小学校としての、調査結果の概要と今後の指導の充実に向けての方向性を記載いたしました。

ご一読いただきますと共に、子ども達の学力向上に向けて、今後とも変わらぬご支援とご協力をお願いいたします。

記

【調査結果について】

《概要》

【国語】では、「話すこと・聞くこと」の領域の問題は比較的よくできていました。「書くこと」「読むこと」の領域の問題では、弱いところが見られました。【算数】では、「データの活用」の領域の問題では、非常によくできていました。「図形」の領域では、他の内容と比べると少し弱いところが見られました。全体として、記述式の問題形式において弱い傾向が見られました。

同時に行われた「児童質問紙」では、起床、朝食等の基本的な生活習慣や「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」等の規範意識がしっかりしています。「友だちの意見や話を最後まで聞く」「総合的な学習に主体的に取り組んでいる」の項目がよくできています。

《強み・弱み》

算数の補充学習である「すすすく算数」の取り組みは11年目となり、その成果としての基本的な計算力が向上したと考えています。また、答えだけでなく、決まりや公式のわけを考えたり、問題の解き方や考え方を大切にしたりするようになってきています。方法や内容に検討を加えながら更に充実させていきたいと考えます。

国語では、ここ数年「話すこと」に焦点を当てて学習を進めてきた結果、「発表」「自分の思いを話す」などの技能が高まったと考えます。今後は、「書くこと」（特に、「自分の主張が明確に伝わるように文章全体の構成や展開を考えること」）に指導の重点をおいて取り組みを進めたいと考えます。

【指導の充実に向けて】

葛川小学校は、1つの学年が極少人数のため、6年生の調査結果のみで学校全体の学力・学習の状況を結果分析し難いという実情があります。「良い傾向」「改善すべき傾向」は学年ごとに異なりますが、子どもの学力・学習状況を「集団（学年や学校全体）の特徴」として捉え指導の充実に生かすという考え方から、子ども一人ひとりの学力・学習状況を分析し指導改善していく中で学力の課題を解決していこうと努力してまいりました。今回の調査を受けて、以下の4点を重点として今後の指導の充実に努めたいと考えています。

- ① 授業における「協同的な学び」の推進を図り、子どもたちが自主的、主体的に学ぼうとする意欲をはぐくんでいきます。
- ② 国語の「書くこと」において、自分の主張が明確に伝わるように文章全体の構成や展開を考えることについて、国語科はもちろん、全教育活動で意識的に取り組みたいと考えています。
- ③ 成果の表れている「すすすく算数」（年間10時間）については、自己解決→グループでの話し合い→文や式に表す活動を重視し、粘り強く課題に取り組む態度の育成に努めます。
- ④ 家庭での学習習慣の定着に向けた取り組みを推進するとともに、生活習慣の見直しについても、保護者の皆様と連携をとりながら進めたいと考えています。